

表Ⅱ-20 宅地擁壁の健全度判定に用いる記録シート（重力式コンクリート擁壁）

整理番号	所在地				
調査年月日	緯度	経度			
設置時期	壁面の高さ	建物との離隔			
地形区分	擁壁の勾配	建物の階数			
調査者	壁面の方角	建物の構造			
区分	項目	チェック	評価基準	配点	
基礎点	環境条件	地盤条件	湧水	擁壁表面が乾いている。	0.0
			湧水	常に擁壁表面が湿っている。 擁壁背後が湿潤状態で目地や水抜き穴から湿気が感じられる。	0.5
			湧水	水がしみ出し、流出している。 水抜き穴はあるが、天端付近で水が浸透しやすい状況にあり、かつ湧水がみられる。	1.0
	環境条件	構造諸元	排水施設等	3m ² に1ヶ所以上、内径75mm以上の水抜き穴及び排水施設がある。または、天端付近で雨水が地盤に浸透しない状況にある。	0.0
			排水施設等	水抜き穴はあるが、天端付近で雨水が地盤に浸透し、水抜き穴が詰まっている。	1.0
			排水施設等	水抜き穴が設置されていない。または、水抜き穴が3m ² に1ヶ所以上、内径75mm以上を満たしていない。	2.0
		擁壁高さ(H)	擁壁高さ(H)	1m < H ≤ 3m	0.0
			擁壁高さ(H)	3m < H ≤ 4m	1.0
			擁壁高さ(H)	4m < H ≤ 5m	1.5
	障害状況	排水施設の障害	排水施設の障害	5m < H	2.0
			排水施設の障害	異常なし。	0.0
			排水施設の障害	天端排水溝に土砂が堆積し、雑草が繁茂している。さらに、天端排水溝にずれ、欠損がある。または、天端背後にクラックがみられる。	0.5
		劣化障害	劣化障害	上記に加え、擁壁のクラックまたは目地からの湧水があり、天端には小陥没もみられる。	1.0
			劣化障害	上記に加え、排水溝に破損、沈下、ずれなどがみられる。	1.5
			劣化障害	異常なし。	0.0
		白色生成物障害	白色生成物障害	擁壁全面に規則性のないクラックが散見される。または、擁壁端面の長手方向に沿って細かなクラックが発生している。	0.5
			白色生成物障害	上記に加え、アルカリ骨材反応による亀甲状のクラックが発生している。または、擁壁端面周辺の長手方向に沿ってクラックが多数発生している。	1.0
			白色生成物障害	アルカリ骨材反応による亀甲状のクラックが明確であり、そのクラック幅も大きい。または、擁壁端面周辺の長手方向に広範囲にクラックが発生し、角が欠け落ちている。	1.5
変状点	擁壁の変状	縦クラック	縦クラック	異常なし。	0.0
			縦クラック	擁壁表面のクラックが生じている一部に白色生成物が析出している。	0.5
			縦クラック	擁壁表面の数箇所のクラックを生じている部分に、白色生成物が析出している。	1.0
		コーナー部クラック	コーナー部クラック	擁壁全面に白色生成物が析出し、漏水もみられる。	1.5
			コーナー部クラック	縦クラックなし。	0.0
			コーナー部クラック	鉛直方向にある間隔をおいてクラックが発生している。	1.5
		ジャンカ・豆板（コールドジョイント）	ジャンカ・豆板（コールドジョイント）	鉛直方向に一定間隔でクラックが発生している	3.0
			ジャンカ・豆板（コールドジョイント）	鉛直方向に一定間隔でクラックが発生し、かつ錆汁が発生している。	4.5
			ジャンカ・豆板（コールドジョイント）	コーナー部にクラックなし。	0.0
		水平移動	水平移動	コーナー部に斜め方向にせん断クラックが発生している。	2.0
			水平移動	コーナー部に斜め方向にせん断クラックが発生し、かつ漏水跡がある。	3.5
			水平移動	コーナー部に斜め方向に発生しているせん断クラックが広がり、ずれが生じている。	5.0
		コンクリート不均一による不同沈下（ブリーディング・コールドジョイント）	コンクリート不均一による不同沈下（ブリーディング・コールドジョイント）	異常なし。	0.0
			コンクリート不均一による不同沈下（ブリーディング・コールドジョイント）	部分的に線状に粗骨材が露出している（ジャンカ・豆板）。	3.0
			コンクリート不均一による不同沈下（ブリーディング・コールドジョイント）	線状に打設面（コールドジョイント）が現れており、それに沿ってひび割れが発生している。	4.5
		地盤による不同沈下	地盤による不同沈下	線状の打設面（コールドジョイント）が多数みられ、それに沿ってクラックが発生している。	6.0
			地盤による不同沈下	水平移動なし	0.0
			地盤による不同沈下	擁壁の目地部に5mm未満の前後のずれがみられる。	2.5
傾斜・折損	傾斜・折損	擁壁の目地部に5mm以上2cm未満の前後のずれがみられる。	4.0		
	傾斜・折損	擁壁の目地部に2cm以上の前後のずれがみられる。	5.5		
	傾斜・折損	異常なし。	0.0		
傾斜・折損	傾斜・折損	擁壁天端付近に一定間隔で断続的にクラックが発生している。また、擁壁表面に断続的に横方向の短いクラックが発生している。	3.5		
	傾斜・折損	擁壁表面に施工時の打設面（コールドジョイント）が発生しており、その上部に比較的大きなクラックが発生している。	5.0		
	傾斜・折損	擁壁表面に比較的大きな斜めクラックが発生している。また、クラックから白色生成物が析出している。	6.5		
傾斜・折損	傾斜・折損	異常なし。	0.0		
	傾斜・折損	擁壁目地で5mm未満の段差が生じている。	3.5		
	傾斜・折損	擁壁目地で5mm以上2cm未満の段差が生じている。	5.0		
傾斜・折損	傾斜・折損	擁壁目地に2cm以上の段差が生じており、前後にもずれが発生している。	6.5		
	傾斜・折損	傾斜・折損なし。	0.0		
	傾斜・折損	擁壁がわずかに前傾している。	4.5		
傾斜・折損	傾斜・折損	擁壁全体が明らかに前傾しており、目視でははっきりわかる状態である。	6.0		
	傾斜・折損	擁壁全体が明らかに前傾し、かつ途中に折損がみられる。	8.5		
基礎点	0.0				
変状点	0.0				
基礎点+変状点	0.0				
健全度判定区分	高				

※基礎点＝環境条件の最大点＋障害状況の最大点、変状点＝擁壁の変状の最大点

（出典：既存造成宅地擁壁の老朽化診断 判定チェックシート、国土交通省国土技術政策総合研究所 HP（一部修正））

表Ⅱ-25 宅地擁壁の健全度判定に用いる記録シート（増積み擁壁（重力式コンクリート擁壁））

整理番号		所在地		
調査年月日	緯度	経度		
設置時期	壁面の高さ	建物との離隔		
地形区分	擁壁の勾配	建物の階数		
調査者	壁面の方角	建物の構造		
区分	項目	チェック	評価基準	配点
基礎点	環境条件	湧水	擁壁表面が乾いている。	0.0
			常に擁壁表面が湿っている。 擁壁背後が湿潤状態で目地や水抜き穴から湿気が感じられる。	0.5
			水がしみ出し、流出している。 水抜き孔はあるが、天端付近で水が浸透しやすい状況にあり、かつ湧水がみられる。	1.0
	構造諸元	排水施設等	3m ² に1ヶ所以上、内径75mm以上の水抜き穴及び排水施設がある。または、天端付近で雨水が地盤に浸透しない状況にある。	0.0
			水抜き穴はあるが、天端付近で雨水が地盤に浸透し、水抜き穴が詰まっている。	1.0
		擁壁高さ(H)	水抜き穴が設置されていない。または、水抜き穴が3m ² に1ヶ所以上、内径75mm以上を満たしていない。	2.0
	1m < H ≤ 3m		0.0	
	3m < H ≤ 4m		1.0	
	4m < H ≤ 5m		1.5	
	障害状況	排水施設の障害	異常なし。	0.0
			天端排水溝に土砂が堆積し、雑草が繁茂している。さらに、天端排水溝にずれ、欠損がある。または、天端背後にクラックがみられる。	0.5
			上記に加え、擁壁のクラックまたは目地からの湧水があり、天端には小陥没もみられる。	1.0
			上記に加え、排水溝に破損、沈下、ずれなどがみられる。	1.5
		劣化障害	異常なし。	0.0
			擁壁全面に規則性のないクラックが散見される。または、擁壁端面の長手方向に沿って細かなクラックが発生している。	0.5
			上記に加え、アルカリ骨材反応による亀甲状のクラックが発生している。または、擁壁端面周辺の長手方向に沿ってクラックが多数発生している。	1.0
		白色生成物障害	アルカリ骨材反応による亀甲状のクラックが明確であり、そのクラック幅も大きい。または、擁壁端面周辺の長手方向に広範囲にクラックが発生し、角が欠け落ちている。	1.5
			異常なし。	0.0
			擁壁表面のクラックが生じている一部に白色生成物が析出している。	0.5
	変状点	擁壁の変状	縦クラック	縦クラックなし。
鉛直方向にある間隔をおいてクラックが発生している。				2.5
鉛直方向に一定間隔でクラックが発生している				4.0
鉛直方向に一定間隔でクラックが発生し、かつ錆汁が発生している。				5.5
コーナー部クラック			コーナー部にクラックなし。	0.0
			コーナー部に斜め方向にせん断クラックが発生している。	3.0
			コーナー部に斜め方向にせん断クラックが発生し、かつ漏水跡がある。	4.5
ジャンカ・豆板（コールドジョイント）			コーナー部に斜め方向に発生しているせん断クラックが広がり、ずれが生じている。	6.0
			異常なし。	0.0
			部分的に線状に粗骨材が露出している（ジャンカ・豆板）。	4.0
水平移動		線状に打設面（コールドジョイント）が現れており、それに沿ってひび割れが発生している。	5.5	
		線状の打設面（コールドジョイント）が多数みられ、それに沿ってクラックが発生している。	7.0	
		水平移動なし	0.0	
		擁壁の目地部に5mm未満の前後のずれがみられる。	3.5	
コンクリート不均一による不同沈下（ブリーディング・コールドジョイント）		擁壁の目地部に5mm以上2cm未満の前後のずれがみられる。	5.0	
		擁壁の目地部に2cm以上の前後のずれがみられる。	6.5	
		異常なし。	0.0	
		擁壁天端付近に一定間隔で断続的にクラックが発生している。また、擁壁表面に断続的に横方向の短いクラックが発生している。	4.5	
地盤による不同沈下		擁壁表面に施工時の打設面（コールドジョイント）が発生しており、その上部に比較的大きなクラックが発生している。	6.0	
		擁壁表面に比較的大きな斜めクラックが発生している。また、クラックから白色生成物が析出している。	7.5	
	異常なし。	0.0		
	擁壁目地部で5mm未満の段差が生じている。	4.5		
傾斜・折損	擁壁目地部で5mm以上2cm未満の段差が生じている。	6.0		
	擁壁目地部に2cm以上の段差が生じており、前後にもずれが発生している。	7.5		
	傾斜・折損なし。	0.0		
	擁壁がわずかに前傾している。	6.0		
	擁壁全体が明らかに前傾しており、目視でははっきりわかる状態である。	7.0		
	擁壁全体が明らかに前傾し、かつ途中に折損がみられる。	9.5		
基礎点	0.0			
変状点	0.0			
基礎点+変状点	0.0			
健全度判定区分	高			

※基礎点＝環境条件の最大点＋障害状況の最大点、変状点＝擁壁の変状の最大点

（出典：既存造成宅地擁壁の老朽化診断 判定チェックシート、国土交通省国土技術政策総合研究所 HP（参考に作成）

表Ⅱ-26 宅地擁壁の健全度判定に用いる記録シート（増積み擁壁（鉄筋コンクリート擁壁））

整理番号	所在地		緯度	経度	
調査年月日	壁面の高さ		建物との離隔		
設置時期	擁壁の勾配		建物の階数		
地形区分	壁面の方角		建物の構造		
区分	項目	チェック	評価基準		配点
基礎点	環境条件	湧水	擁壁表面が乾いている。	0.0	
			常に擁壁表面が湿っている。	0.5	
			擁壁背後が湿潤状態で目地や水抜き穴から湿気が感じられる。	1.0	
		排水施設等	水がしみ出し、流出している。	0.0	
			水抜き穴はあるが、天端付近で水が浸透しやすい状況にあり、かつ湧水がみられる。	1.0	
			3m ² に1ヶ所以上、内径75mm以上の水抜き穴及び排水施設がある。または、天端付近で雨水が地盤に浸透しない状況にある。	1.0	
		擁壁高さ(H)	水抜き穴はあるが、天端付近で雨水が地盤に浸透し、水抜き穴が詰まっている。	2.0	
			水抜き穴が設置されていない。または、水抜き穴が3m ² に1ヶ所以上、内径75mm以上を満たしていない。	0.0	
			1m < H ≤ 3m	1.0	
			3m < H ≤ 4m	1.5	
	4m < H ≤ 5m		2.0		
	障害状況	排水施設の障害	5m < H	0.0	
			異常なし。	0.0	
			天端排水溝に土砂が堆積し、雑草が繁茂している。さらに、天端排水溝にずれ、欠損がある。または、天端背後にクラックがみられる。	0.5	
		劣化障害	上記に加え、擁壁のクラックまたは目地からの湧水があり、天端には小陥没もみられる。	1.0	
			上記に加え、排水溝に破損、沈下、ずれなどがみられる。	1.5	
			異常なし。	0.0	
		白色生成物障害	擁壁全面に規則性のないクラックが散見される。または、擁壁端面の長手方向に沿って細かなクラックが発生している。	0.5	
			上記に加え、アルカリ骨材反応による亀甲状のクラックが発生している。または、擁壁端面周辺の長手方向に沿ってクラックが多数発生している。	1.0	
			アルカリ骨材反応による亀甲状のクラックが明確であり、そのクラック幅も大きい。または、擁壁端面周辺の長手方向に広範囲にクラックが発生し、角が欠け落ちている。	1.5	
異常なし。			0.0		
変状点	擁壁の変状	縦クラック	擁壁表面のクラックが生じている一部に白色生成物が析出している。	0.5	
			擁壁表面の数箇所のクラックを生じている部分に、白色生成物が析出している。	1.0	
			擁壁全面に白色生成物が析出し、漏水もみられる。	1.5	
		コーナー部クラック	縦クラックなし。	0.0	
			鉛直方向にある間隔をおいてクラックが発生している。	2.5	
			鉛直方向に一定間隔でクラックが発生している	4.0	
		ジャンカ・豆板（コールドジョイント）	鉛直方向に一定間隔でクラックが発生し、かつ錆汁が発生している。	5.5	
			コーナー部にクラックなし。	0.0	
			コーナー部に斜め方向にせん断クラックが発生している。	3.0	
		水平移動	コーナー部に斜め方向にせん断クラックが発生し、かつ漏水跡がある。	4.5	
	コーナー部に斜め方向に発生しているせん断クラックが広がり、ずれが生じている。		6.0		
	異常なし。		0.0		
	コンクリート不均一による不同沈下（フリーディング・コールドジョイント）	部分的に線状に粗骨材が露出している（ジャンカ・豆板）。	4.0		
		線状に打設面（コールドジョイント）が現れており、それに沿ってひび割れが発生している。	5.5		
		線状の打設面（コールドジョイント）が多数みられ、それに沿ってクラックが発生している。	7.0		
	地盤による不同沈下	水平移動なし	0.0		
		擁壁の目地部に5mm未満の前後のずれがみられる。	3.5		
		擁壁の目地部に5mm以上2cm未満の前後のずれがみられる。	5.0		
	目地の開き（コーナー部）	擁壁の目地部に2cm以上の前後のずれがみられる。	6.5		
		異常なし。	0.0		
擁壁目地部で5mm未満の段差が生じている。		4.5			
傾斜・折損	擁壁目地部で5mm以上2cm未満の段差が生じている。	6.0			
	擁壁目地部に2cm以上の段差が生じており、前後にもずれが発生している。	7.5			
	異常なし。	0.0			
鉄筋腐食（塩害・中性化）	擁壁目地部に2cm以上の開きがあり、擁壁同士が前後または上下にずれている。	7.5			
	異常なし。	0.0			
	擁壁面がわずかに前傾（後傾）している。	6.0			
鉄筋腐食（塩害・中性化）	擁壁面が明らかに前傾（後傾）しており、目視ではっきりわかる状態である。	7.0			
	擁壁面が明らかに前傾（後傾）し、かつ途中に折損がみられる。	9.5			
	異常なし。	0.0			
鉄筋腐食（塩害・中性化）	擁壁表面に鉛直または水平方向に短いクラックが発生している。	6.0			
	擁壁表面の比較的広い範囲に鉛直、水平方向にクラックが発生しており、錆汁も認められる。	7.5			
	擁壁表面の広範囲に鉛直、水平方向にクラックが発生しており、かつコンクリートの剥離、鉄筋の腐食が認められる。	9.5			

基礎点	0.0
変状点	0.0
基礎点+変状点	0.0
健全度判定区分	高

※基礎点＝環境条件の最大点+障害状況の最大点、変状点＝擁壁の変状の最大点

（出典：既存造成宅地擁壁の老朽化診断 判定チェックシート、国土交通省国土技術政策総合研究所 HP（参考に作成））

表Ⅱ-29 宅地擁壁の健全度判定に用いる記録シート（二段擁壁（重力式コンクリート擁壁））

整理番号	所在地			
調査年月日	緯度	経度		
設置時期	壁面の高さ	建物との離隔		
地形区分	擁壁の勾配	建物の階数		
調査者	壁面の方角	建物の構造		
区分	項目	チェック	評価基準	配点
基礎点	環境条件	湧水	擁壁表面が乾いている。	0.0
			常に擁壁表面が湿っている。 擁壁背後が湿潤状態で目地や水抜き穴から湿気が感じられる。 水がしみ出し、流出している。 水抜き穴はあるが、天端付近で水が浸透しやすい状況にあり、かつ湧水がみられる。	1.0
			3m ² に1ヶ所以上、内径75mm以上の水抜き穴及び排水施設がある。または、天端付近で雨水が地盤に浸透しない状況にある。	0.0
		排水施設等	水抜き穴はあるが、天端付近で雨水が地盤に浸透し、水抜き穴が詰まっている。	1.0
			水抜き穴が設置されていない。または、水抜き穴が3m ² に1ヶ所以上、内径75mm以上を満たしていない。	2.0
			1m < H ≤ 3m	0.0
		擁壁高さ(H)	3m < H ≤ 4m	1.0
			4m < H ≤ 5m	1.5
			5m < H	2.0
			異常なし。	0.0
	障害状況	排水施設の障害	天端排水溝に土砂が堆積し、雑草が繁茂している。さらに、天端排水溝にずれ、欠損がある。または、天端背後にクラックがみられる。	0.5
			上記に加え、擁壁のクラックまたは目地からの湧水があり、天端には小陥没もみられる。	1.0
			上記に加え、排水溝に破損、沈下、ずれなどがみられる。	1.5
			異常なし。	0.0
		劣化障害	擁壁全面に規則性のないクラックが散見される。または、擁壁端面の長手方向に沿って細かなクラックが発生している。	0.5
			上記に加え、アルカリ骨材反応による亀甲状のクラックが発生している。または、擁壁端面周辺の長手方向に沿ってクラックが多数発生している。	1.0
			アルカリ骨材反応による亀甲状のクラックが明確であり、そのクラック幅も大きい。または、擁壁端面周辺の長手方向に広範囲にクラックが発生し、角が欠け落ちている。	1.5
		白色生成物障害	異常なし。	0.0
			擁壁表面のクラックが生じている一部に白色生成物が析出している。	0.5
			擁壁表面の数箇所のクラックを生じている部分に、白色生成物が析出している。 擁壁全面に白色生成物が析出し、漏水もみられる。	1.0 1.5
変状点	縦クラック	縦クラックなし。	0.0	
		鉛直方向にある間隔をおいてクラックが発生している。	3.0	
		鉛直方向に一定間隔でクラックが発生している	4.5	
		鉛直方向に一定間隔でクラックが発生し、かつ錆汁が発生している。	6.0	
	コーナー部クラック	コーナー部にクラックなし。	0.0	
		コーナー部に斜め方向にせん断クラックが発生している。	3.5	
		コーナー部に斜め方向にせん断クラックが発生し、かつ漏水跡がある。	5.0	
	ジャンカ・豆板 (コールドジョイント)	コーナー部に斜め方向に発生しているせん断クラックが広がり、ずれが生じている。	6.5	
		異常なし。	0.0	
		部分的に線状に粗骨材が露出している(ジャンカ・豆板)。 線状に打設面(コールドジョイント)が現れており、それに沿ってひび割れが発生している。	4.5 6.0	
	水平移動	線状の打設面(コールドジョイント)が多数みられ、それに沿ってクラックが発生している。	7.5	
		水平移動なし	0.0	
		擁壁の目地部に5mm未満の前後のずれがみられる。	4.0	
		擁壁の目地部に5mm以上2cm未満の前後のずれがみられる。	5.5	
	コンクリート不均一による 不同沈下 (ブリーディング・コールドジョイント)	擁壁の目地部に2cm以上の前後のずれがみられる。	7.0	
		異常なし。	0.0	
		擁壁天端付近に一定間隔で断続的にクラックが発生している。また、擁壁表面に断続的に横方向の短いクラックが発生している。	5.0	
		擁壁表面に施工時の打設面(コールドジョイント)が発生しており、その上部に比較的大きなクラックが発生している。	6.5	
	地盤による不同沈下	擁壁表面に比較的大きな斜めクラックが発生している。また、クラックから白色生成物が析出している。	8.0	
		異常なし。	0.0	
擁壁目地部で5mm未満の段差が生じている。		5.0		
擁壁目地部で5mm以上2cm未満の段差が生じている。		6.5		
傾斜・折損	擁壁目地部に2cm以上の段差が生じており、前後にもずれが発生している。	8.0		
	傾斜・折損なし。	0.0		
	擁壁がわずかに前傾している。	6.5		
	擁壁全体が明らかに前傾しており、目視ではっきりわかる状態である。	7.5		
	擁壁全体が明らかに前傾し、かつ途中に折損がみられる。	10.0		
基礎点	0.0			
変状点	0.0			
基礎点+変状点	0.0			
健全度判定区分	高			

※基礎点=環境条件の最大点+障害状況の最大点、変状点=擁壁の変状の最大点

表Ⅱ-30 宅地擁壁の健全度判定に用いる記録シート（二段擁壁（鉄筋コンクリート擁壁））

整理番号		所在地			
調査年月日		緯度			
設置時期		経度			
地形区分		建物との離隔			
調査者		建物の階数			
		建物の構造			
区分	項目	チェック	評価基準	配点	
基礎点	環境条件	地盤条件	湧水	擁壁表面が乾いている。	0.0
			常に擁壁表面が湿っている。 擁壁背後が湿潤状態が目地や水抜き穴から湿気が感じられる。	0.5	
	構造諸元	排水施設等	水がしみ出し、流出している。 水抜き孔はあるが、天端付近で水が浸透しやすい状況にあり、かつ湧水がみられる。	1.0	
			3m ² に1ヶ所以上、内径75mm以上の水抜き穴及び排水施設がある。または、天端付近で雨水が地盤に浸透しない状況にある。	0.0	
	障害状況	擁壁高さ(H)	水抜き穴はあるが、天端付近で雨水が地盤に浸透し、水抜き穴が詰まっている。	1.0	
			水抜き穴が設置されていない。または、水抜き穴が3m ² に1ヶ所以上、内径75mm以上を満たしていない。	2.0	
			1m < H ≤ 3m	0.0	
			3m < H ≤ 4m	1.0	
			4m < H ≤ 5m	1.5	
	障害状況	排水施設の障害	5m < H	2.0	
			異常なし。	0.0	
			天端排水溝に土砂が堆積し、雑草が繁茂している。さらに、天端排水溝にずれ、欠損がある。または、天端背後にクラックがみられる。	0.5	
		劣化障害	上記に加え、擁壁のクラックまたは目地からの湧水があり、天端には小陥没もみられる。	1.0	
			上記に加え、排水溝に破損、沈下、ずれなどがみられる。	1.5	
			異常なし。	0.0	
		白色生成物障害	擁壁全面に規則性のないクラックが散見される。または、擁壁端面の長手方向に沿って細かなクラックが発生している。	0.5	
			上記に加え、アルカリ骨材反応による亀甲状のクラックが発生している。または、擁壁端面周辺の長手方向に沿ってクラックが多数発生している。	1.0	
			アルカリ骨材反応による亀甲状のクラックが明確であり、そのクラック幅も大きい。または、擁壁端面周辺の長手方向に広範囲にクラックが発生し、角が欠け落ちている。	1.5	
			異常なし。	0.0	
	変状点	擁壁の変状	縦クラック	擁壁表面のクラックが生じている一部に白色生成物が析出している。	0.5
擁壁表面の数箇所のクラックを生じている部分に、白色生成物が析出している。				1.0	
擁壁全面に白色生成物が析出し、漏水もみられる。				1.5	
コーナー部クラック			縦クラックなし。	0.0	
			鉛直方向にある間隔を置いてクラックが発生している。	3.0	
			鉛直方向に一定間隔でクラックが発生している	4.5	
ジャンカ・豆板（コールドジョイント）			鉛直方向に一定間隔でクラックが発生し、かつ錆汁が発生している。	6.0	
			コーナー部にクラックなし。	0.0	
			コーナー部に斜め方向にせん断クラックが発生している。	3.5	
水平移動			コーナー部に斜め方向にせん断クラックが発生し、かつ漏水跡がある。	5.0	
		コーナー部に斜め方向に発生しているせん断クラックが広がり、ずれが生じている。	6.5		
		異常なし。	0.0		
コンクリート不均一による不同沈下（ブリーディング・コールドジョイント）		部分的に線状に粗骨材が露出している（ジャンカ・豆板）。	4.5		
		線状に打設面（コールドジョイント）が現れており、それに沿ってひび割れが発生している。	6.0		
		線状の打設面（コールドジョイント）が多数みられ、それに沿ってクラックが発生している。	7.5		
地盤による不同沈下		水平移動なし	0.0		
		擁壁の目地部に5mm未満の前後のずれがみられる。	4.0		
		擁壁の目地部に5mm以上2cm未満の前後のずれがみられる。	5.5		
目地の開き（コーナー部）		擁壁の目地部に2cm以上の前後のずれがみられる。	7.0		
		異常なし。	0.0		
	擁壁天端付近に一定間隔で断続的にクラックが発生している。また、擁壁表面に断続的に横方向の短いクラックが発生している。	5.0			
傾斜・折損	擁壁表面に施工時の打設面（コールドジョイント）が発生しており、その上部に比較的大きなクラックが発生している。	6.5			
	擁壁表面に比較的大きな斜めクラックが発生している。また、クラックから白色生成物が析出している。	8.0			
	異常なし。	0.0			
鉄筋腐食（塩害・中性化）	擁壁目地で5mm未満の段差が生じている。	5.0			
	擁壁目地で5mm以上2cm未満の段差が生じている。	6.5			
	擁壁目地に2cm以上の段差が生じており、前後にもずれが発生している。	8.0			
鉄筋腐食（塩害・中性化）	異常なし。	0.0			
	擁壁コーナー部目地に5mm未満の開きがある。	5.0			
	擁壁コーナー部目地に5mm以上2cm未満の開きがある。	6.5			
鉄筋腐食（塩害・中性化）	擁壁コーナー部目地に2cm以上の開きがあり、擁壁同士が前後または上下にずれている。	8.0			
	異常なし。	0.0			
	擁壁面がわずかに前傾（後傾）している。	6.5			
鉄筋腐食（塩害・中性化）	擁壁面が明らかに前傾（後傾）しており、目視ではっきりわかる状態である。	7.5			
	擁壁面が明らかに前傾（後傾）し、かつ途中に折損がみられる。	10.0			
	異常なし。	0.0			
鉄筋腐食（塩害・中性化）	擁壁表面に鉛直または水平方向に短いクラックが発生している。	6.5			
	擁壁表面の比較的大きな範囲に鉛直、水平方向にクラックが発生しており、錆汁も認められる。	8.0			
	擁壁表面の広範囲に鉛直、水平方向にクラックが発生しており、かつコンクリートの剥離、鉄筋の腐食が認められる。	10.0			

基礎点	0.0
変状点	0.0
基礎点+変状点	0.0
健全度判定区分	高

※基礎点＝環境条件の最大点＋障害状況の最大点、変状点＝擁壁の変状の最大点

（出典：既存造成宅地擁壁の老朽化診断 判定チェックシート、国土交通省国土技術政策総合研究所 HP（参考に作成）